

いみずのに拓く

7号

[2013.3.25]

「イクメン・イクジイ・イクバア・カジダン・カジジイ」

9月23日「射水市ボランティアフェスティバル」会場で開催しました。写真展開催



最優秀作品

「これからもパパよろしくね」

橋詰ちひろ
[射水市神楽町]

真剣な表情でお風呂に入れていたパパも、今では楽しく入っています。お風呂で泣いていた娘も今ではお風呂が大好きな娘になりました。

最優秀賞に選ばれてからもっと手伝ってくれるようになりました。4月から私も仕事に復帰します。これからは、夫やおじいちゃん、おばあちゃんに手伝ってもらいながら、子育てをみんなで楽しみたいと思っています。(受賞のコメント)



応募作品
より

男女共同参画社会の推進について一言〇まだまだ男性が育児休暇も取りづらい日本社会の現実なので、何か画期的な対策で取りやすい世の中になってほしいです。今は育児に関わりたい男性も増えているので、育児の時間を取りやすく仕事の調整がしやすくなるといいなあと、毎日感じています。(応募者の感想から)

地域啓発活動

下地区 滝沢卓コンサート

(8月28日)

下村コミュニティセンター生涯学習事業、ヘルスボランティアと共催にて「滝沢卓コンサート」を開催しました。静かな人柄がにじみ出るコンサートの合い間に、青井谷のことや被災地のこと等いろいろ話されました。シンセサイザーの音色により表現される情景や思いに浸りながら、癒しのひと時を過ごすことができました。(島倉 静子)



大島地区 アイランド音楽コンサート

(6月9日)

アイランド音楽コンサートを開催しました。アイルリッシュミュージシャン外2名の演奏により、クラシックとは違った躍動感のあるリズム。独特の楽器が織りなす響きは、時には日本人の心に響く哀愁のメロディに変わり、懐かしく感じられました。

珍しい楽器とその生演奏に皆さん興味を持っておられたようでした。(杉岡美恵子)



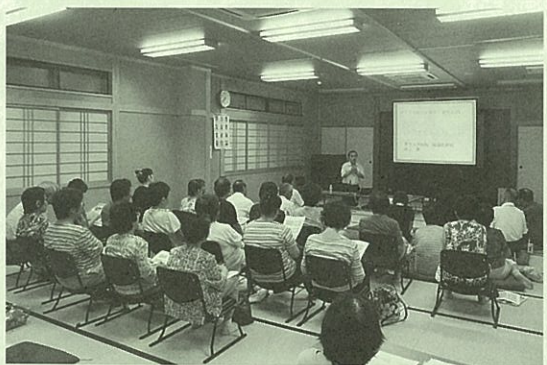
大門地区 出前講座

(8月21日)

射水市民病院脳神経外科部長の赤江豊先生をお迎えし、「年をとってもボケないための認知症予防法」と題して講演していただきました。

専門用語が多いながらも、親しみやすく事例をあげ話され私もうなずく場面が多く、他人ごとではないとつくづく思いました。参加者からの質疑応答では、自分自身の今の状態を心配しての質問等があり、中身の濃い講座だったと思いました。

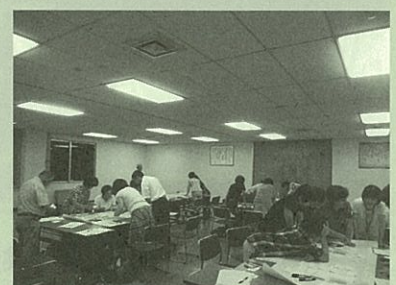
明日はわが身かなあ…と健康に留意したいと再認識しました。(山崎 京子)



香員会の活動より



5月 越中だいもん凧まつり



7月 ワークショップ

小杉地区 講演会

(9月7日)

チューリップテレビでお馴染みのニュースキャスター宮城克文氏を講師に迎え、「放送人から見た子育て・親育て」と題し講演していただきました。約60名の参加者がさわやかな語りに聴き入りました。豊富なデータから子育て世代の厳しい労働環境や育児負担の現状を知りました。子どもの基本的信頼感を育て、親（大人）子の信頼関係を強めることの大切さを改めて感じました。(堀川 克子)



新湊地区 市長とのランチトーク

(7月7日)

サンドイッチとコーヒーを片手に市への要望について意見交換した。DV被害者などの「サポートセンター」の設置や、放課後児童クラブの充実など女性や子育て支援のほか、小中学生の登下校時の防犯・施設整備・地域の活性化などについて、多くの意見が出された。

夏野市長は、提案や意見について一つ一つ丁寧に説明され、これからも市と市民との積極的な交流を重ねていきたいと締められた。(瀬山 和子)



推進員学習会 ワークショップ

「男性の育児休暇」

(7月30日)

「妻の出産を控えて、育児休暇を取りたいと考えた男性が総務課に相談に来ました。男性の申請は社内ですべて初めての事です。」というテーマで、五つのグループに分かれてワークショップ形式で意見交換した。

・会社が認めてくれるかどうか？ ・みんな(同僚)に迷惑がかかる
・独身社員からエール ・逆手にとって考えれば会社のPRになる
などの意見が出され、各グループで発表した。

調べてみると、事業所規程がない場合でも申出により、女性や男性でも休業することは可能であり、問題がある場合には事業所に対して労働局雇用均等室から助言や指導、勧告がなされるなど、育児休暇を取れる環境ができていたとのこと。次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、かつ育成される社会の構成に資することを目的として制定されているので子育ては女性ばかりでなく、男性もいっしょに関わって、子どもの成長を見守っていきましょう。(前手 政幸)



11月 文化祭で寸劇上演



11月 DV防止街頭啓発



12月 若手男性料理教室

研 修 会 報 告

■ 講 演 会 (5月10日)

演題 「1人1人の思いが意識を変える」

講師 宮城 克文氏 (チューリップテレビニュースキャスター)

「自ら楽しみながら、強い意志を持って活動を続けると、社会は変わっていく」との強い思い、テレビ局勤務での取材や番組構成の経験を通して感じたことを熱く語られました。そしてそこで出会った人々から受けた感動や生き様を通して、一人一人が意識と意志を持つことの重要性和活動(行動)することの必要性を受講者一同、再認識させられたひとときでした。(長徳 一)



■ 日本女性会議2012仙台 (10月26~27日)

会場：仙台国際センター

内容：基調講演 「日本の男女共同参画施策の現状と今後の課題について」

特別プログラム 「女性たちが語る3.11~これまでと今と」

パネルディスカッション 「復興・防災に女性の声を~出す、ひろう、生かす」

会議では、被災地の女性たちが、家族や自宅など多くを失った極限状態の中で、どのような困難にどう立ち向かってきたか、報道では知りえない生々しい現状が語られた。

多様な人への支援には女性の視点が不可欠なことから、防災・復興施策の策定段階から女性が参画し、その声が反映される仕組みが必要であると感じた。(酒井由美子)



■ DV防止啓発フォーラム (11月11日)

主催：富山県男女参画ボランティア課

会場：高周波文化ホール

内容：講 演 「DVとは何か？なぜするのか？」

講 師 山口のリ子氏 (アウェア代表)

(被害者支援・子どもたちへの防止教育・加害者対策)

朗読劇 「ひまわり~DVをのりこえて~」

DVは親密な関係の人への「虐待」「力と支配」であり、その背景には「暴力容認の社会」と「男性女性の社会的偏見」があると説明されました。そして、DVのない社会を創るためには、「デートDV防止教育」を推し進め、「一人ひとりが意識を変える」よう継続して啓発していく必要があると話されました。

■ 富山県男女共同参画推進員地域別研修会 (2月16日)

演題 「幸せになろう」

講師 牧田 和樹氏 (射水商工会議所会頭)

富山県と射水市、高岡市、氷見市の男女共同参画推進員共催で、射水市大島絵本館シアターにおいて「地域別研修会」を開催しました。

瀬山委員長のあいさつで始まり、富山県男女参画・ボランティア課による「富山県の男女共同参画の取組み」説明の後、全国の商工会議所で一番若い会頭でいらっしゃる牧田会頭に「思いやり」の大切さについてご講演いただきました。

すべての行動はfor me (自分のため) と for you (人のため) に分けることができ、思いやりのある状態はfor meをおさえて、よりfor youであることだと語られました。簡単なようで難しいことですが、皆が日々意識し、皆で幸せになれたらすばらしいなあと感じました。最後に会場の皆で長渕剛の「しあわせになろうよ」を斉唱し、温かな講演会となりました。



編集後記

我が家でも「イクジージ」が始まりました。でもいいところだけ…。都合が悪くなったらすぐ「お〜い」の声が…。孫育て、子育てを楽しみながら、地域とのつながりを推めていくのも男女共同参画推進委員の活動の一つではないでしょうか。(高波 敏子)